

本日、天皇陛下は62歳の誕生日をお迎えになられました。そのような佳節をフィリピンの皆様とともにお祝いできることを大変喜ばしく思います。

まず始めに、昨年12月、台風オデットが当地に甚大な被害をもたらしました。被災された方々に、日本国政府を代表して改めて心よりお見舞い申し上げます。また、世界は引き続きコロナ禍という未曾有の危機にありますが、ワクチン接種率の上昇に後押しされ、当地でも新規感染者数が減少傾向にあります。長期化している新型コロナウイルスとの戦いにおいて、日本はフィリピンと常にともにあり続けてきました。コロナ禍からの復興に向けて「誰一人取り残さない」(no one will be left behind) ために、今後とも両国間の協力関係をより強固なものとしていきます。

このような困難に直面しつつも、明るいニュースもありました。特に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会は大きな成功を収めました。その中でも、フィリピン代表のオリンピックアン及びパラリンピアンによる活躍、特にハイディリン・ディアス選手がフィリピン史上初の金メダルを獲得したことは両国民を大いに勇気づける快挙であり、改めて心よりお祝い申し上げます。

インド太平洋地域を取り巻く状況に目を向けますと、地域の安全保障環境は、格段に早いスピードで厳しさと不確実性を増しています。そのような中、自由、民主主義、法の支配といった普遍的価値及び原則を共有する国々による緊密な連携が重要です。特に、南シナ海における海洋秩序の維持は、国際公共財を守ることに直結します。それは、力や威圧によってではなく、「法の支配」の原則に基づいた行動によってのみ達成できると考えています。だからこそ、フィリピンは日本にとって最も信頼のできるパートナーの一つであり、2016年の比中仲裁判断に象徴されるように、フィリピンが国連海洋法条約を含む国際法に基づいた平和的な紛争解決を目指すことを日本として高く評価しております。このことは、昨年11月に岸田総理がドゥテルテ大統領との間で行われた日比首脳電話会談においても確認しました。

偉大なフィリピン人作家であり、今年1月に惜しまれつつその生涯を終えた、フランシスコ・ショニール・ホセ氏による次の一節を御紹介いたします。

“It is the heart which dictates, which rules, which lets us live and die.”

(我々を左右し、支配し、生かすも殺すも己の心次第である。)

この一節は、心にしたがって、両国民がそれぞれのことを想い発展してきた、日比関係にこそ当てはまるものではないでしょうか。日本とフィリピンの関係は、両国の先人たちのたゆまぬ努力により、戦争という深い傷を負った歴史を克服し、フィリピンから「兄弟よりも近

い友人」と称されるまでに極めて良好なものとなりました。フィリピンの皆様の寛容さ及び優しさに深く感謝する次第です。

過去一年間は、コロナ禍の困難な時代にあるからこそ、両国間の「黄金時代」を象徴するような二国間協力を示すことができた年でもあったと考えております。2017年に、安倍総理（当時）が日本による官民併せて1兆円規模のフィリピンの国造り（state building）への支援を表明しました。その約束は、コロナ禍による困難に直面しつつも、5年の期間内に達成され、多くの大型インフラ案件によるフィリピン経済の活性化、ミンダナオ和平プロセスの促進、保健医療制度の改善、フィリピン沿岸警備隊（PCG）の海上法執行能力の近代化等、様々な分野で効果的に活用されており、大きな成果を上げています。また、近い将来、マニラ首都圏地下鉄や南北通勤鉄道が完成し、フィリピンの皆様の生活向上の一助となることを心から楽しみにしております。

より良い未来のために寄り添って歩んできた、日本とフィリピンとの絆はこれからも不変です。フィリピンにとっても、日本が今後とも信頼できるパートナーであり続けることを期待しております。同時に、日本としても、若く才能に富む人々に恵まれ、将来性に満ち溢れているフィリピンとの関係をより一層発展させていくことを心から望んでいます。

末尾になりましたが、天皇陛下とドゥテルテ大統領の御健康及び日本とフィリピンとの末永い友情を心より祈念し、私の御挨拶とさせていただきます。